

今期のテーマ

人生100年時代における東京の福祉施策のあり方について

今後急速に進展する高齢化・デジタル化を踏まえ、2050年代を見据え、全ての高齢者がどのような状態にあっても、生き生きと心豊かに暮らすことができる社会を実現することが必要

審議テーマの背景

2050年代の社会環境（超超高齢社会の到来）

● 元気な高齢者の増加

- ・社会参加、就労機会、フレイル予防

● 生産年齢人口の減少

- ・介護人材の確保、世代間交流・多世代共創の実現

● 認知症高齢者、外国人等の増加

- ・認知症のある人への理解、包摂社会の実現

● 高齢者単独世帯の増加

- ・終活支援、地域の見守り、居場所づくり

デジタル技術の活用による都民生活の質の向上

R7の取組

● 検討分科会：総会で決定したテーマを踏まえ、臨時委員や外部講師による発表・議論

【第1回】

- ①『高齢者就労と福祉政策～「地域人財」としてシニアが活躍できる福祉政策を～』（ニッセイ基礎研究所 前田 展弘 氏）
- ②『成年後見制度の問題点と2050年の展望』（更生保護法人同步会非常勤相談員 多賀 努氏）

【第2回】

『東京の強みと弱みを踏まえた持続可能な地域づくり：フレイル予防の視点から』（健康長寿医療センター 副所長）

● 起草委員会：これまでの意見等を踏まえ、論点を整理し、構成等を検討

【第1回】これまでの委員の発言や発表等を基に、論点を整理

【第2回】整理した論点を体系化し、構成案を議論

スケジュール

➢ R7下半期も引き続き、検討分科会、起草委員会を開催し、更に議論を深め、年度末に意見具申を完成

- ・ 11月末～ 起草委員会(2～3回程度開催)
- ・ 令和8年 1月末頃 第4回検討分科会
- ・ 3月中 総会

- I はじめに
- II 前期意見具申後の都の取組
- III 人口構造と社会構造の変化
- IV 人生100年時代における東京の福祉施策のあり方
 - 1 人生100年時代とは（人生100年時代の到来、人生100年時代がもたらすもの）
 - 2 人生100年時代の福祉施策－東京の特異性と時代にマッチした福祉施策－
 - 第1節 東京の特異性を踏まえた地域の実情や人々の動きにふさわしい施策
 - (1) 地域を創る様々な主体
 - (2) 地域における居場所づくり
 - 第2節 世代というものの意味を問い直し、世代間の関係の未来展望を考えてみる
 - (1) 多世代交流・世代間理解による連携
 - (2) 共に支えあうケアのあり方
 - (3) 家族や家庭の支援が脆弱となった場合のセーフティネット
 - 第3節 各ライフステージに対応した福祉施策をどう進めるか
 - (1) 若年期・壮年期への支援
 - (2) プレシニア・前期高齢期（元気高齢者）への支援
 - (3) 後期高齢期（身体・認知機能の低下した方）への支援
 - (4) 超高齢期（最期を迎える方）への支援
- V おわりに